伊地知文庫
文庫20
423
5

小紙幅物語卷之五

秀句問答

京都より行りし河大根屋つぎの宮乃屋敷にて
日ゆの物ごとり小者文と行りてこと乗八屋ちかと河ゝ清水ゝ
伯耆ゝ中ゝ飯塚造酒屋茅尾市兵衛ゝ飯塚の主
兵部堂ゝ勝ゝ茅尾八左衛門ゝ飯塚の主人ゝ小者小志ゝ
て高話戯沈とゝ茅尾ゝ紙ゝ測一ゝと言ていはくり神ゝ
らのゝ茅尾ゝ文ゝ茅尾ゝ八左ゝ飯塚八郎ゝ乃長ゝ文
の泉ゝ生まるゝ小ゝ名ゝ長命ゝ名ゝ
ゝ芸ゝ世乃中乃ゝ金ゝ
ゝゝ河ゝ文ゝ乃ゝ

並ゐる料小寧備小當粮とこそ第一とまぱ書ふよりて当る
よけさ義去小宮數乃名をつくしおりしと以て品々しらけ
ほりうんと以ふおもく海りゆうんし料ふこそおかしけまり
ろ支の名りを　蕎麦の鳥方　江豚皮　石もち魚兜　青とさか鳥尾
おたま鶉門　羊羹儀叉を　白田鯛炊　海ア源叉鮒　青含時
薄刀白兜　浦ア推茸　八幡鶴毛　鎧法江　鰈ニア
梅猿りん　うまい叉曹司　吉兆坊弁当　源ふっとりん汁
いさら坊貝藻　鯖ニア　鮑の元ア　砂糖兎牙　しその香かや
紫芋極楽天王寺　うま安　千鮟　葱　梅草　黄志め　高野豆子　茶仲
鯛等貝叉　粕乃貝住　白山の精進料理　鰤數十三　腸の雲
伏見千保螺　円けんちん物螺　鮎源八　昆布鍵ア　鯛の板鮓　塩漬　あまの手一

こま鯉大谷平山が一の谷乃せんじんしゃ梶原が二ア度の鯛蔵ハこの
さうよ結文魚鱗鶴翼丸繪方小能尾つり矢よ共方海り哉
乃すざまじさとたとへ乃笠りん紹添わりを蒲鉾さひさをとも
料料ちに胡てえちとゐふさくくいとて神ひかし笑飯鳴
の云職文ハ數代の家よおりて文と學し本字よおそふ何でも家
さ弟子と名宇ゆと君子小形とし安人ハ弟子本に縫り行りや鄙や
とさふ蓋んほハずや古今の扇よあよ寄ハ人のうとさよふ
荷くく万乃抱の象とぞ安まりきる軒の中ふあら人金装すを
き抱おま一ハ孫り筆の筆ノよつけさくいひ生せらく動てあく
書葉水よまむ川柳いつまちふよのまこりちち力とそし入ぞうし
白高とりやちさ貝ふおずかさ見蔥とそらし然とおらさ豆う

去年松乃枝ともし稲荷さき椒の木乃樹ともしあいひ千ゐハあく
此方ゐ蛙れひらきてしかけの時よりやゝ人あをひとつ行りて世
またび乃事冬まて此毎ありにハ下てうをみちうまでよりわ
微乃ちとかりてハ菅乃とれ実種ありぞからりにけ白茅ゐ評
代ゆハ餅つ卜ド乃孫ぞつるそ苔のしたたゞうちりきし人の
世となりてぞ嵐にも草のおちり葱ハよみける卜黒戟八方あハ今ま
羽花お栽ゐ極拘よぬぐ〳〵文字人とい〳〵

構誤杉　柿本人丸　山邊赤人　猿丸大夫　藍乃仲匕
東風水葱子　文屋康稗　樹君丁　棟棋子祈垣　寒菊志忝
坂上莒則　竹の源毅　木支則　源下刈　清原元菱菖蒲
山椒太夫　六捌云雞臥　老実竹村　菲京太夫　辛林

源乃擽杓　大江菅人　長乃稗　冬識葱　春泉蓼　蓬[illegible]
刈麺　後義極ゐ葛　僧小ハ
龜山遍照　若宮清源　喜撰法師　白蓮　農人
小野小松　泉擽　伊勢ゐ稲　紫式部　赤染蓮　女小ハ
荷ゐ稲云　大二乃山端来　浅間梔子毋　二条院菜木　藤原有物

武和方とちりれ紅葉の杵ハ姫ゐ重ねましころ玉津島出積
芦高遍乃蛙あきて世話ひ伊勢乃浜荻ニ偏乃秋立田
乃わ龜ぶ難波乃梅いつ連り撰梅ゐ向ひてぶ此外松とおす
いゝ薄ゐいとつとひて出ねぞらじけなさうこ方道すまで
ましゝ菊姓のかくしきふしきおね
姑やゝ飯窓[illegible]

京にも同年小西や文治といふ富商の子にて吉川根子といふ人と
みな〳〵幸福なる身にてその外わかりきれぞれ得る手[illegible]
はらひて出入親しく文伝し。高尚陽梅に走りてとやかく
ある月を磨きて世をわたる月は文治のみならずまつりごと
元来の天性をかへ武家の善に飯綱の月縁にまみれる人
詐ふと覚えてもち血幻術士となる秘密しかしきまで覚く
はかりなく秘れ朋友なりともさぞされしきいとわ事にて識
おしひとむきりゆかりゆきつきを海く教法しきまでは今で邑
まさ人の好みよりて薮にかに世人気がふしぎの術と精み
まされ文治は外の親らつくしとなかりて大に修用せしおもふ
所にしたまふ方は魔法とのぶらと笑ひ其手の[illegible]

蓋幻術まくなり乃すみまでも元の文化なるといふ。芥子の中
に須弥を隠し蒼海を掌に移し大形を縮小させ。坐人を
以て龍石を鈞瑠の中に入れ亥を踊せ[illegible]は寿の
殺秋の梅花を熟し[illegible]と云。文治帰宅して両親に[illegible]ば
彼所の伝三行の和やかを加ねらの[illegible]邪正をわかつされ
かし。疑ずる者これの乱業も悲劇をせつなく慨きし程間
とかせんよりは我まづかけて失なんは生きるよ術を
よ云ものがの法我文小伝用するは必[illegible]の如を
打て[illegible]を手まきて鞭投とかんとなら来しち[illegible]切村
人は頭道のべきやと重治やくて打出の鎚のいきるや海が
手小枝を付てみるとふ村前がせよしん就わく我[illegible]と

かくれなき文殊の一字をせうじいろ〳〵笑てすみやかにもとうき
まんぶこそ文殊を入包けまてあさけり父給ふつまずほぶ
ろいのそ切付られ正しく肉のおふ小狩しらが血縁まま
て予ハ衣まて持られよかよりて縁も討ば文左の角まぞら
角もらし切付まてハ天井まいしとうつさきまへ入り
蜘蛛のごとくならつまさかく手さ毎を突いハ衣まとて童
よ外も山村よりおかし形のその人口方まで立かくびらう今
おふ男わく古中身さりとも加しぎの面影をを見てより今ハ
きみするけの跡しとひ出そさうハ浴室に入てとれ疲を体やまん
とふかくひらしく濃もあるよりあつてずゆるらぬ湯常く濃
出てありしよりそしづきにみつの時文すとれ程より流まで出ていつ

ちりぬむる影山のちぎまま郷を行ひけりかなれ怪しらをみし
ぶのすのくきかりし山のちわくを出て秋ハ陸りの身
となりしハ皮をの浮水をとまつてぞ

備後南山月

伊予より熊野へ西の行程百余里山険川深しおのおのハ
山岩厳ころ安川て一寸のちかくか刻き根寒板と帳らし
ろと竈よもおの衆ハ方二三里あかくて西と秋雨流ふ
男を射して食をさしく威ハ一生五穀をとらずもぞ松の菓
から権を捨かて歳の後とし猿狸狐つらして常の種
とも男あさしに移けづもぞ湯わかせぞ顔の白く一寸ふ
毛生まる違ひ疲まる牛のごとし此の虫小こそかる天飛の人

ろはあるとて波し月のあるうみなるこれ誠の弟
のを小ちゝ打し八まりぐぬるとて沖早より玉あり貴と一
家のうちをも孫入さう嫁もしく我を合するにもとえぬ南蛮の方
数して弟乃七人よりあるうおを中小仏原乃狂文とうんして七
十年乃義ぐ云やよ孫大海小屋奥めるうぶせて十ちるあ間よ
飯ぐらぐ義八年一業の所婚ぐるうおをこの宿世といとなりし
おるうして旅傷を球よるひ者ぐするあるしりと耳の毛ぐ表
水しぐ山ぐるうるうあ決ぐ小八米を流小生ぐ中結とて和とで
実人男の門ゆして雪書めるうめ所の毛八海和乃狂の人狂
一両野ぐるを乃ぐしるうの高ぐ明ぐるを人面毛一変を生
てりよ和小すぐ毛ぐるう高山ゆり千本ぐ毛ぐ寿ぐるうて華ぐるうれ

を蹴れ山てふるきの風に走りて流れ出す山の上より一
の鯉魚瀧をのぼる勢ひあり撥こと尾をふるひて頭を悩や
此巓に山川あり沈水の折ふしや流れの三間ばかりに
此遠山の清げにて深河遠しと流れに鯉魚の勢ひその瑞
とみへ其の至極に鯉魚に留楼給くこの魚のこのかうける
をおのづと此山より人倫やらぬ一筆の塩梅あり川てあなた後枝
中天の余漆し巌の肩にひとり川の雲の巣をもて卵を
あたゝむ卵よりまた鷲の手漸く巣立んとする鷲の雲に結をと
与んなり江河の上を飛行をばいまゝなる所の魚大蛇に
魚に乱波つゝんで此山に飛ぶ鷲の縛とよむ所は諸雲に
久く巡り巣より一段高き梢に翔る体の絆の縛抱と巣の

おく巌すと其や巣より出ゝく色々とれ鷲の翔りて飛行ぎ
またば此水人巌のうへと翔りしと波の山邑郎とかく立ち
きけらひとも見るその礼ば流れの遣にろしてまつしかりける
ふを喜でいでもりじきとるとくをはなけり漁るに道ゐる小人く
そふまでつくすふや岡にかくるゝもとびらぐらしてけり

人面巌体

種旬に山縁ありてば亜門志て引ぞなきさ水あるさ河を草結と云
抱として棕乃枝ずゑとらりて猿の人の仕志へとする事に
みちくさもを渡小歩きぞ是に又むすびそへてとるやけんと
いふ小ゝの交に筵をおそて諸木にやがて上に重ねりて枝と枝とす
此あたりで小火ととみわしてやきそふそ乃故事むすびの

[illegible]の里のくに同[illegible]まくふかつきたるまうづ
ぐくの雑所とものぶ又ひとりの[illegible]入ていつてうたを
ふくまひこうこうきくりしてきたるをわかたをとわられ
男ぞ爰に雑人のごとくきたるあるの男大うに大のりまをとて人
あるの雑人ごとくて立むかへば男所とそ[illegible]爰作
人偏のうふかわるぞ化生変化の狐とまがうたんとするふ
でつくんぞりひよりすぞ羅とみたぞ[illegible]ト小射ちうん
と射よりまをこしすびきまをつやをよられの狐かわるぞ
面のくのちかくぞ出のふかまをひとりぞ平小数とやめ
給へと沙げるふぞ[illegible]給へゆるめくまどぞ狐打とけぬ[illegible]
四ちみくと給りつぐるに給ぞ小ちり人黒と数給へとひ

給ぞ給へ[illegible]ひりいぞ乃小出給へ[illegible]
同ちく給へ給ぞ狐の狐かくけるの狐とをあ
てゆうんかをまぞ小尾一ちをりさかしく狐ちをりは
て紅梅ちをかをちくく一狐
の小美形のこそちを一町わちり四乃若
ちくくちる髪へかくして老ひ[illegible]ちてくく
尺ちぞ狐乃男衆ちんとかをを押をそり狐狐給へ
阿給へかるの狐ちかんぞ給ぞ給へ狐ちをとて同狐狐をま
くち美形とんぞとくちをて同若すの同小の男乃給
あ小へくくかくかくみちう給ぞ給へ給ぞ給へちをとくとくを
ぐりて給をちをぐり四ちり狐男をちを狐給とやくく泉

化女雲鬢栗雪

ともし火のあかく。山の色の小蕊を七人計より下へかゝらずしてね今

さへりまた挫されて未ハ外しもやむでじんや腹まゝりのそえて

被あくらう隠をかくしいりし人の文をかげさのけまたハ寝まを

ゆゆさらけり霜月の始ハ長兵衛渡して庭の積りか入すら

れどもさまでもぐ祇の人の情小助らまの為に夜殺とれさの四つ美を

絶公事断てまて陰月しまく二月もさらすまでも襟ハそれ

やくあらしず南面ハ精さえふかう。あり暁及すりのまゝ稀小ち

さやりき押わたを東の方とかん出まで一よん斗むかう乃行藪

乃山の端小嘘乃空ひゞりしてりせいの高さま丈をやりうんで

なかり肌すさとりけ申さるにおろさびの人の雨をさへさらりと消

未あかくみみをさぐ。ぬか小潜やりく漸やくくしれきりを悪

さもとおのかにて容貌のうへどんかりきさよ毒母の桃様小まかんえつく

や娘の行小わそびきんうくやかうん個くうむ行てゝ乃らじとを

うらそはニ才歳小てうじとえあに髪乃よいあか小帰て切けけ

よりやさあかぞ天やうけうゝわるみのぞ君をとへんちろうさ出あれ

ばの波女郎小宿やまて小当むいい小する事ありや尺布てしさえれど小

鈴の瀬にてあくあり恩寄光勢けさりを悪して出てゝくだしし山さ

絹様小うんそ手ゆそいよするを人小かくあらけまへ大ハ当れ精男孫小

高女をふうの御ひのるかみ当乃手ハ締よけりくさいかしゆゝ八今

どて高川間あよりえんさへ人にひ。ゆしざのゝり小道路ふかくゆそ

まつり子も当白とかさ。残書も積あ。くハ御当れ川ともぞ出ゝけまゝ

つじ清欠てまへ小ゐすひてせりかゝのる喜をうともいふへいつかぞとめへが

菩てあるゝかまでぢちりんをそへてもちくるしく笑ひちんをそへ給
葉あぢきなく焼乃きえんとすきえいやまとうてくるしといふ道にたちまはりぬ

貧福有定

此世乃若狭能をわしまたしあ業にはまり大分までに持来人
福乃ままら平生はじめて二千貫目ほどより小高をいやしき
ありし身にてゆくすゑまで六拾年あまりの間男工[illegible]乃不孝を[illegible]
く古家乃跡をせすにて堅にわるき家がりに行ていとつゞき
く富貴にあわらん難もくは沈織の流る時代乃手利としぶか
どふこ町もと思ましく後頭とて一和尚ニ三十文ふゝらまぶ
ひそふ小此分の富と同じくおきふし敷はたる事に住り敷乳振
金銀乃ゆくうちあまる事とたるに此西鶴に行て[illegible]化人ハ帰りよろまかす

寄手後ん中にも深く包て尸さ此事のゑしたし善後を[illegible]
而と見えてとふ治り我先年衆の先月つるまでは[illegible]鉛燈さんとく
ま事乃肌衣は他の前の小さは金子は貴賓を及ぶとく至
きあぢきす寄骨の身はまませんと枝打まる人前に張置ハ文
ます初しくもおそろへ果銀とするに小づせん人の名しらん
物も捨ましと云ハ兼毎に小路くとわるきうじ小武河の相子
のづく身の扇乃小あいと云ひつ着りやわり前より形に二拾ち込え
わるのを文嚢は[illegible]東さる而中で金子に合百もとひらふまでさ
より此を座とみ給今小松て月毎小はぞことおく里[illegible]
まあつくぎさまでも身此貴河のしくさ支ちることもわりゆくし
とりうそとより三十五文ハ扱ひつ参乃男さやすしく捨給ひき

うちそもしうみなれふるすまりいて寺に御しね桜にゆくと
ちふはる人小袖寂せバ其小はも女房の乃らわきかくしと数包こ
て己又寺へと香炉ていろへんむ簡板町にこそ今も残りてあるさ
まれの住来する所なれバかとし都のうちにわかと覚えらしく
九条の町より小畑の細路を黒谷にうつりきて夜と花の
と自とこゝろの内に不知何ぞそ華鏡房やうのおもてら
三月きん入てとう乗なれバ宅なりねし嫉さ泥なく本の
まにて一夜小つひむかし遣八むしり門は左に背ひろり大きなる墓
かく立つ捨てなけ捻捻ら下なれ淋しきこそ大悪
けぬとおれそおりくおの人のつまとき袖とみえしを
あやしとふそ門あくまでバ人くふるもの哀きう案きなく旅

りおきおりしれこらし人こまおろくふこしのつまでのうく迎て
御らそそ昔彼乃桂女町より砕さまて御かし情なくりおるる
悪きよのとさなき力を抜て退つゝふ足なくて直なるおるる
乗とも様きれ女子八又出らき禰ハ釈迦世尊の示す根楽の様成れ
御小ぞんでき東畑とさすし。友りしこみわらすもなく捜とやち
つ許乃柳をいひてもお新後意て御り足ふ白川捨乃柳げ
小家のうちに残るのいふて門げまでも思地の縁ふとすぐら
あそとらふ稗しるり。なりや言や腕るびまよいつきてやもにも抜
どもや文字かけん所まを捉ておんざんかとすまバいかかしくまき
振て女まかわ川よむしりかせんかなくこまき雨なぶて寄いかわり人
の力かく漸くさる捻ひけ後女のぎの見分の因果と知りてお

[illegible]

千変万化

[illegible]

胎卵湿化

[illegible]

胎卵湿化の三つは各宝ばりこと申よて希しよ変形ばりこと[illegible]紙は自在出申ひろく述[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

アレ
ヤイ
イヌガ
キツテ
ヤルベシ
セウノ

[illegible]

よ結しるかハ只かかり計乃けうめことぞそふちまめし海船ぞ

乱行女人常精海

猿ハう樹小のがり水獄八ゑふりしろく当れ雲小浮ハ魚乃比

座小集ゆる天狗乃ひとむちを一すし人乃数ハ海とわを兼と

りひさまりく乃藝とるかとも人ハ我待乃一龍も遂し一ことを

東大寺御の生活乃長汀巡見しけるおの殿アよ往蔵

の拝とみえて待千年人吉浮乃席とすふを飾よそひ黒雲

と遠擲しきなりる鬼從乃あるにまばえなりて彼上

と起りと中計ゆく。怪や化生比丘あるべしと挑げけよ

つきん又渕乃方ら守計れ男狗数小言力常ころ序

中ぞハ主人とるんしが彼と歩て客み小みして会意と入

消飯と帰ふまり常の人れ席よ？せるとしろ文苑経

住中る事彼れとの保ま先乃ごとくして遂ら後とも小翁ふ

わがおれども言前とさま濁郷もご主人の云とる海と風なくて、

彼さぞ言とく海ん余小八云ふじと答辞て飛びつる小りわ意

とも我人乃やさよ大なとしばりし。象小ふさわらけ鯨の子とくみ手て

出家りく念ふどとも少てりみそり事ねのれよ会りう海しさ

とりんしりと又ハ曲囲而小混乱さ大霞雲髭なそ武富れ

人乃たハ山混亮の助を人小おろしとと水鉢乃こまと諍う

しかそ母ハ人かくあをけると見りね月目俳で其乃世界よ

そぞり千載小常住よ遂て万の極致の彼らるすといひ出実

りる接縁乃一義ありまりしと云常縁まて後きも寸毫

[illegible]

[illegible]

くれとさく事ハかけ[illegible]

てゆゑ

宗祇[illegible]

大尾

宝徳二巳酉月吉日

姉小路通堀川東入ル町　西村市郎右衛門

丹波屋茂兵衛